

新型転換炉ふげん発電所C-濃縮廃液貯蔵タンク下部からのわずかな漏えい

このことについて、核燃料サイクル開発機構から下記のとおり連絡を受けた。

記

新型転換炉ふげん発電所（新型転換炉；定格出力16.5万kW）は、1月7日より第17回定期検査を行っているが、2月13日16時頃、放射線管理区域内の特別立入区域^{*1}パトロール（2回/月）において、原子炉補助建屋廃棄物処理室地下1階にあるC-濃縮廃液^{*2}貯蔵タンクの下部に取り付けられている加温用蒸気出口配管部に固形状の堆積物を発見した。

固形物について放射能濃度と元素分析を行った結果、元素分析では、濃縮廃液貯蔵タンクに貯蔵されている内容物（主な成分は硫酸ナトリウム）が確認されたため、タンク内容物が漏えいし固化したものと推定された。なお、放射能濃度はタンク内の濃度よりは非常に低い値（4.7Bq/g程度）であった。

なお、この事象による周辺環境への放射能の影響はない。

[平成14年2月14日 記者発表済み]

*1：通常の管理区域より線量当量率の高い区域であり、施錠管理により立入を制限している。

*2：放射性の廃液を蒸発濃縮処理し、それにより発生した濃縮廃液を貯蔵するタンク（3基：30m³）。

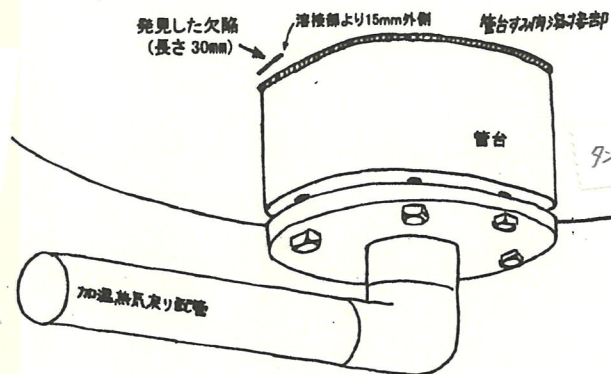
2月16日、漏えい箇所を特定するため、濃縮廃液貯蔵タンク下部の保温材を取り外し調査を行った結果、加温用蒸気出口配管フランジ取付管台とタンク鏡板との溶接部から約15mm離れたタンク下部鏡板部に長さ約30mmのすじ状の欠陥があり、そこからタンクの内容物が漏えい（1滴/1秒程度）していることを発見した。

17日、漏えい箇所に対しゴムと鋼板および接着材による止水措置を施し、樹脂により補修を行ったが、漏えいが完全に止まっていないことを確認した。

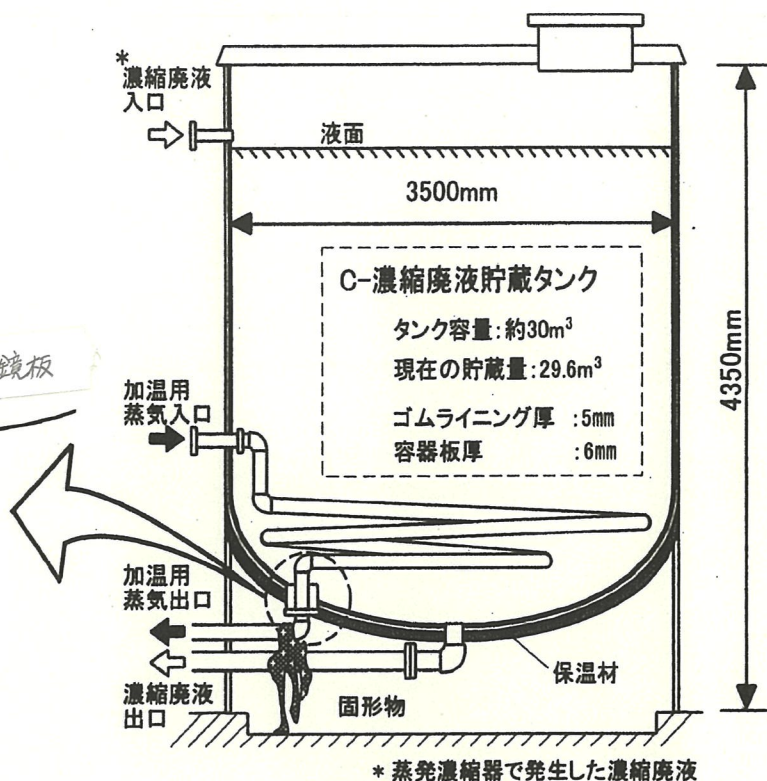
20日、このため補修を行ったゴム、鋼板、接着材を全て除去し、漏えい箇所にゴムを当て、漏えい箇所全体を鉄箱で覆い、その中に充填材を注入する方法で再度補修を実施した。結果、現時点において漏えいは確認されていない。さらに鉄箱全体を覆うように樹脂を塗布して補修を仕上げる。

今後、特別立入区域パトロール（2回/月）に加え、当該タンクの底部を監視カメラにより監視する。

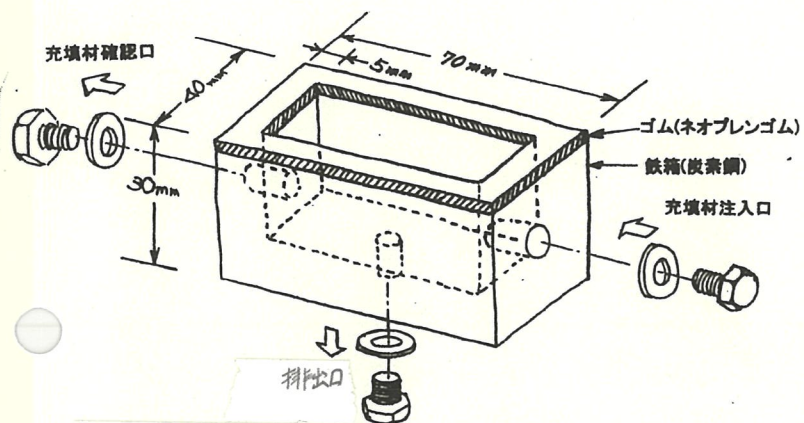
なお、漏えいを発見した直後から加温蒸気を止めていたが、蒸気を流した場合の漏えいの有無についても確認する。



漏えい箇所状況図

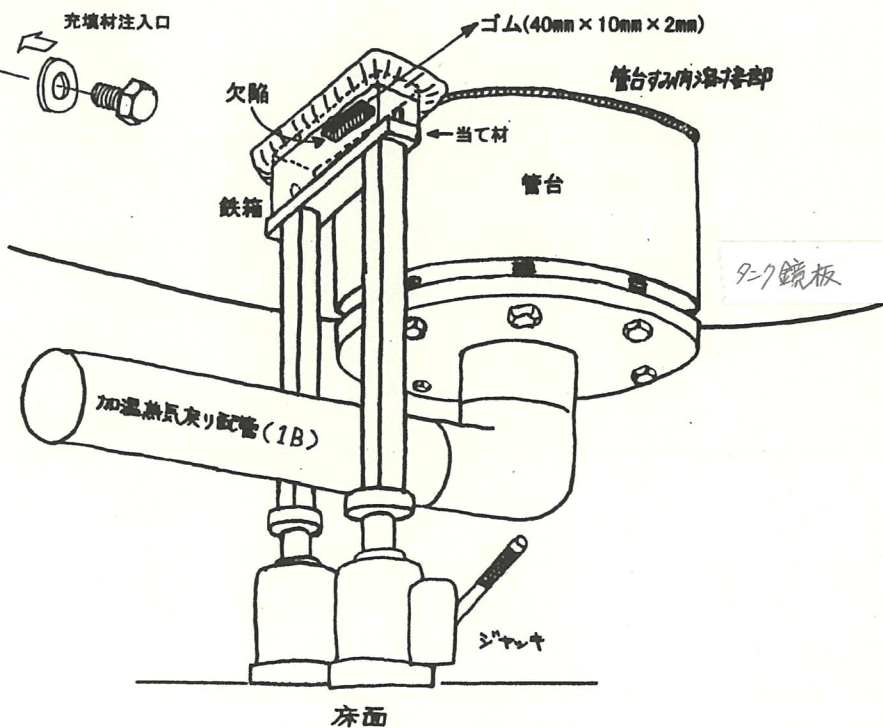


C-濃縮廃液貯蔵タンク断面図



- ・充填材注入口: 充填材を注入する穴
- ・充填材確認口: 余分な充填材を排出する穴
(充填材: シリコンゴム)

鉄箱概要図



補修工事概要図(現状)